

## 令和4年度（2022年度）地学協働オンライン講座 その1 事業報告書

### I 事業の概要

#### 1 事業名

地学協働オンライン講座 その1 「地学協働を促すマネジメント力」

#### 2 開催日時

令和4年10月13日（木）13:30～16:00

事例発表の事前オンデマンド配信は10月4日（火）配信開始

#### 3 開催場所

##### (1) 事例発表

動画投稿サイト YouTube による事前オンデマンド配信

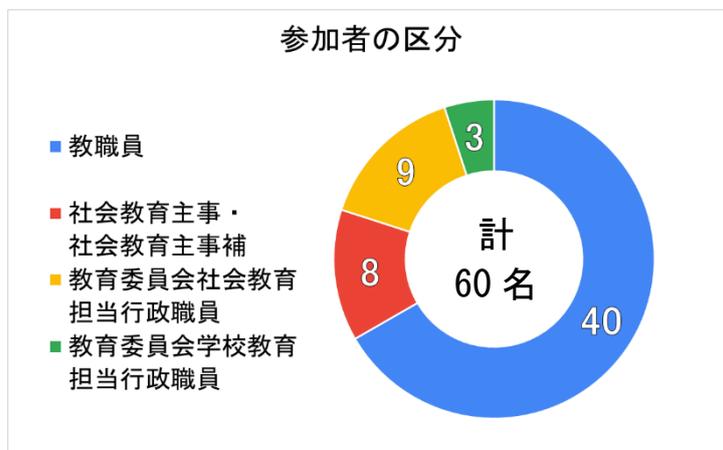
##### (2) 意見交流・トークセッション

オンライン会議システム Zoom によるオンライン開催

#### 4 参加人数

60名（当日オンライン参加29名、事例発表視聴のみ31名）

#### 5 参加者の区分



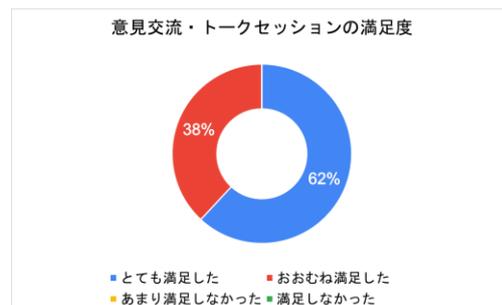
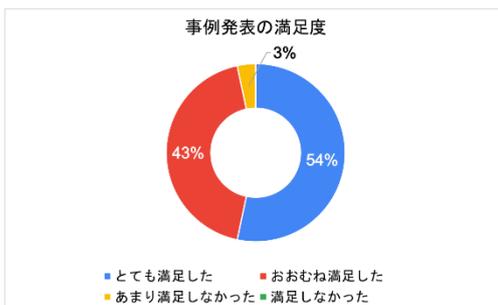
#### 6 プログラム

事前 オンデマンド 配信	事例発表 学校の教育課題に対応した 地学協働の取り組みを紹介			
10/13 (木)	13:30 入室	14:00 意見交流 事例発表への 質問や感想を 交流	14:30 トークセッション 地学協働へ主体的に参画する 教職員の育成について 登壇者が対談	15:50 閉会 16:00

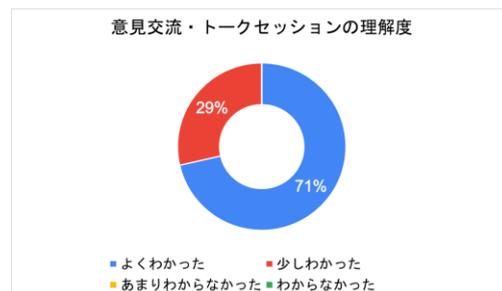
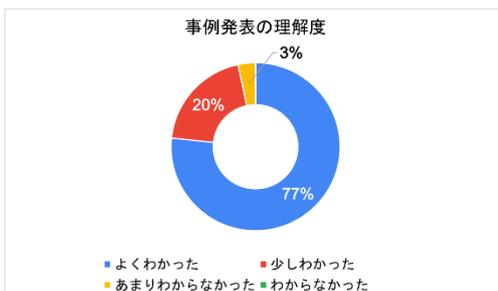
プログラム	講師等	内容
事例発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 壮警町立壮警中学校</li> <li>・ 北海道幕別清陵高等学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各学校の地学協働の取り組みについて5分程度毎の動画に編集し YouTube にて限定公開</li> </ul>
意見交流	<p>【講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 壮警町立壮警中学校 校長 松岡 賢晃 氏</li> <li>・ 北海道幕別清陵高等学校 校長 澤田 慎也 氏</li> </ul> <p>【進行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道立生涯学習推進センター 社会教育主事 齊藤 明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事例発表を見た参加者の質問や意見に対して、講師の視点から回答する</li> </ul>
トークセッション	<p>【講師】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見交流から引き続き</li> </ul> <p>【進行】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 北海道教育庁生涯学習推進局 社会教育課地学協働推進係 主査 佐々木 直人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道教委が進めている地学協働の取り組みについて、講師の立場から、どのように進めていくことが大切か、質問を交えながらトークセッション</li> </ul>

## II アンケート結果

### 1 満足度



### 2 理解度



### 3 地学協働を進めていくためにはどのようなことが大切だと思いましたか（自由記述）

- 生徒の主体的な取組
- 子供が主役になれる場があること
- 地域も学校もお互いのために何ができるか連携して取り組んでいくこと。異年齢の交流によって、深い学びに繋げること。やってみようの精神。教職員の心理的安全性の確保。
- 地域の特徴や産業を理解した上で、地域と学校がお互いに協力し合い相乗効果が生み出せるような取り組みにすることが大事だと思った。
- 所属長と自分の考え方の開きやどれだけ共感が得られるかなど学校現場での実施は環境に左右される
- 地域の担当者と学校の担当者や子どもたちが協働して活動したり事業を企画立案、実施、評価することが大切で、大人がお膳立てして子どもを活動に参加させることは長続きしないと感じた
- 子ども・教職員・地域がねらいを共有し、意義を理解して取り組むこと
- win-winの関係。
- 教職員の理解促進
- 学校と地域との目標の共有
- 地学協働は子供を成長させるための手段であること。
- 地域とのビジョンの共有とまずやってみるという実行力
- 校長の決断 地域の方への働きかけと PDCA
- 先生方との意識共有
- 目的（ゴール）を共有し、そこに向かって行動できる当事者意識を教職員、地域住民の双方に持たせるコーディネーターあるいはマネジメントが校長には求められるということ
- 校長等リーダーのビジョンやCSや地域学校協働本部等の組織の活用
- コーディネーターが重要、目的や目標を理解してもらわないと、こちらの意図と生徒の成長につながらないことが良くわかった。
- 地域と学校が同じ思いを持つこと
- 校長のリーダーシップと教職員の共通理解
- 生徒の変容 校内での役割分担、特に校長が経営方針を教頭と共有した上で、校長がスポークスマンとして、教頭が校内で役割を果たす点が重要だと思いました。
- 関係者が教育的意義を理解し、共有することか大切だと思いました。
- 教育効果の理解
- 学校と地域の連携に加え、教育委員会内部の学校教育担当と社会教育担当の連携
- 地学協働を進めるには、学校内だけでなく、学校外にもキーマンが必要と感じた。
- 教職員の理解と行政の協力
- まずは学校を地域へ積極的に開くこと。教職員の意識改革と働き方改革の両立。
- 教員が楽するためのものではなくて、子供たちのために何が大切で、何ができるかが重要と学校と地域みんなが思えるかどうか。
- 目標を共有した上で「まずはやってみよう」という雰囲気づくり
- 生徒の成長のためになるかどうかを中心に据えること
- 事業展開の方法として、「成長の視点が大切である」という部分に納得しました。形式的なものとならないよう、気をつけて展開していきたいと思います。